

OFFICIAL MATCH DAY PROGRAM

発行：関西学生サッカー連盟
2009年5月16日発行 第6号

JUFA Kansai

第87回関西学生サッカーリーグ
2009年5月16日(土) 第7節

関西学生サッカーリーグ第7節



劇的な幕切れを演出し
チームを喚起の渦に!

(写真：第6節 関学大-大体大より
関学大・阿部浩之選手)

Photo: UNN関西学生報道連盟

4連勝と好調の関学大が首位に浮上。勝点3差で追隨するのは5チームと、リーグは依然混戦状態

今節でリーグは選手権のため一時中断。今節、各チームはリーグ前期後半戦へ、選手権へとつなげるどんな足がかりを掴むのか!?

■5月16日(土) @西京極総合運動公園補助競技場

11:30 Kick off 立命大-大体大

立命大・GK①鈴木彩貴は「気を抜かず今の流れを変えずにやること」と上位相手に未だ負けなしのチームに自信をもち、次こそ勝ち星を取りに行く。一方、「気分的に落ち込むことなく、甘いプレーを出さずやっていく」と大体大・北村公紀ヘッドコーチは意気込み。大体大は連敗の流れを断ち切りたいところ。

14:00 Kick off 阪南大-京産大

なかなか波に乗れない阪南大。ボランチ⑧長瀬圭佑は、「4バック、2ボランチの距離感を大切に」守りを修正して京産大戦で臨みたいと意気込みを語った。3連敗と苦しい戦いの続く京産大は「戦う気持ちを見せて、自分達が満足できるサッカーをしないと」と古井裕之監督が語るように、まずはメンタル面の修正を図る。

■5月16日(土) @山城総合運動公園太陽が丘球技場B

11:30 Kick off 同 大-大教大

勝ち星まであと一步の惜しい試合がつづく大教大・入口豊監督は「是が非でも勝たたい」と強い意気込み。対する同大・望月監督は「やることを整理してバランスを整えたい」と、万全の態勢で臨むべく、次節に向けての調整を誓う。

14:00 Kick off びわこ大-関西大

びわこ大・望月監督は関西大を「誰もが認める強いチーム」と称し、「受け身にならなくていい、チャレンジャーとしてはやりやすい」と意気込み。対する関西大、攻守のキーマンであるSB②田中雄大は、「粘りが足りない。耐える気持ちは大事」と接戦をモノにするための精神面をさらに重要視して、びわこ大戦に臨む。

■5月16日(土) @鶴見緑地球技場

11:30 Kick off 桃山大-大産大

途中出場からの活躍が光るFW 36 中東優斗は、「総盤の得点はかりではなく、先制して耐えてしのぐ試合に持ち込みたい」と大産大戦への抱負を語る。その好調桃山大との対戦で、大産大・榎引実監督は「大教大が桃山大相手に見せた、素早いプレスからの速攻を参考にしたい」と秘策を練る。

14:00 Kick off 関学大-大院大

「流れを切らさず、連勝していきたい」と前節2ゴールを挙げた関学大⑨阿部浩之。関学大は勝利で首位をキープできるか。首位を走る関学大と対戦するにあたって、大院大・藤原義三監督は「攻め急がないこと。そしてカウンターをさせないこと」の2点を対策として挙げる。明留如何。

関西大学 vs 大阪学院大学

試合前、関西大の島岡健太監督は、「ポジションを高める試合をしたい」と語り、一方大院大の藤原義三監督は、「まずはしっかり守ることから」と繰り返した。その両監督の言葉通り、関西大が攻めて、大院大が守るという構図で試合が始まった。それも、かなり一方的な形で。開始から10分で、関西大は4度の決定機を掴んだ。しかし、シュートは枠をとらえない。それでもトーンダウンすることなく攻め続ける関西大が先制したのは18分。FW⑦佐藤悠希のスルーパスを受けたFW⑩金園英学がGKと1対1になる。金園は冷静に浮き球でGKをかきはずし無人のゴールに蹴り込む。その後も、前半は大院大陣内だけで試合が進む、ハーフコートゲームの状態。実際、前半の関西大のシュート数が12本に対し、大院大は0本。だが、関西大も自加点が奪えなかった。

「大きなサッカーをしよう」(藤原義三監督)と、大院大が腹をくくって臨んだ後半。展開はガラリと変わる。ロングボールをFWに当てて、そのセカンドボールを拾うという割り切ったサッカーに転換した大院大がスペースを叩く。その大きなサッカーが83分に実る。FW⑨岡村拓哉が体を張ってPKを得る。そのPKを、MF 53 四ヶ浦寛康がしっかり決める。前半からは想像の付かない、ドローという結果。両チームの明暗の表情はハッキリとしていた。

(文:サッカーライター ハヤシ ヒロヒサ)

関西大 1 - 1 大院大

■5月9日(土) 11:30 kick off
@ 鶴見緑地球技場

◆得点◆

関西大 18分 17 金園 英学(7 佐藤 悠希)
大院大 83分 53 四ヶ浦 寛康

阪南大学 vs 桃山学院大学

阪南大 2 - 2 桃山大

■5月9日(土) 14:00 kick off
@ 鶴見緑地球技場

◆得点◆

阪南大 19分 14 東 浩史(3 朴 帝宣)
桃山大 35分 6 岡田 翔太郎(2 中山 修志)
阪南大 72分 34 南篠 駿(14 東 浩史)
桃山大 84分 36 中東 優治(33 山敷 誠也)

阪南大の須佐徹太郎監督が「まだまだ体調不良などでメンバーが揃わないが、出場停止から選手が戻ってくることは光明」と述べた、その停止明けのMF⑭東浩史がまず観客を魅了する。左サイドでボールを受けると、鮮やかなドリブルで桃山大の守備の密集をくぐり抜け、シュートもGKの脇を抜く。この一撃でリズムの乗った東は、ドリブルとパスを巧みに使い分け、阪南大の攻撃をリード。桃山大は守備に追われることとなった。だが、35分、桃山大の誇るレフティーMF⑥岡田翔太郎が一振りして同点を持ち込む。ゴール前25メートル付近でボールを受けた岡田は、迷わず左足を振り抜き、ゴールを仕留めた。

ハードなぶつかり合いとなった後半の主役は、両チームとも1回生だった。先に結果を出したのは、阪南大FW34 南篠駿。72分に、東からのスルーパスを受けた南篠は、豪快な右足で蹴り込む。桃山大は、途中出場の36 中東優治。84分にMF 33 山敷誠也のクロスをヘッドで合わせて同点弾を決める。桃山大は、松本直也監督が「勢いを感じている」と言う通り、またもや終了間際の劇的な展開で勝ち点を得た。

(文:サッカーライター ハヤシ ヒロヒサ)

京都産業大学 vs 大阪産業大学

2連敗中の京産大と、開幕からまだ一つも白星の無い大産大。低調な両チームの試合は、意外な点の取り合いとなった。

まずは京産大が主導権を握る。普段と違い、ボールを支配した状態で試合を進める京産大は、16分、MF⑩小笠原侑生の右サイドからのクロスでDF⑤吉川拓也が折り返し、MF③笠原裕二が先制点を挙げた。しかしその後は次第に攻め手を失い、大産大の時間が増え始める。そして34分、大産MF⑧浦川祐基からのボールをMF⑩橘章斗が持ち込んでゴール。試合を振り出しに戻した。後半開始直後の46分には、京産大のミスをついた、FW⑨西之宮慎司のゴールで勝ち越しに成功。京産大は3バックに変更し、中盤でボールを奪おうと試みるが、一旦傾いた流れは戻らない。73分にはカウンターから大産大・FW⑫鏑田有馬が決め、試合を決定付けた。試合終了間際で京産大も一矢報いるが、時すでに遅し。大産大がついに嬉しい初勝利を挙げた。大産大・櫛引実監督は「橘のポジションを左からセカンドトップに変えたのが成功した。やはり橘にボールが入ると攻撃が作れるので」と勝因を挙げる。一方、京産大・古井裕之監督は「中盤を厚くするために3バックにしたが、逆に中盤を支配されてしまった。ベンチワークが裏目に出てしまった」と悔やんだ。

(文:京産大アスレチック 谷口達也)

京産大 2 - 3 大産大

■5月9日(土) 11:30 kick off
@ 三木総合防災公園第2陸上競技場

◆得点◆

京産大 16分 3 笠原 裕二(5 吉川 拓也)
大産大 34分 10 橘 章斗(8 浦川 祐基)
大産大 46分 9 西之宮 慎司(4 乾 圭太)
大産大 73分 12 鏑田 有馬(11 林内 秀樹)
京産大 89分 5 吉川 拓也(26 富田 慧)

第87回関西学生サッカーリーグ
GAME RESULT 2009年5月9日(土) 第6節



関西学院大学 vs 大阪体育大学

無失点で3連勝し、勝てば首位の可能性のある関学大。対して大体大は3連敗中と、勝利で駆けこまストップをかけたところ。両者の白熱した試合の決着は後半ロスタイムに待っていた。

1-1で迎えた後半、リードを奪ったのは大体大だった。59分、大体大はテンポの良いパスをつなぎ、右サイドからゴール前へとボールを入れる。このボールが関学大DFに当たり、こぼれたところをFW⑩山本翔一が押し込んだ。このゴールを皮切りに大体大が関学大ゴールに襲いかかる。中盤でボールをつなぎ、試合を支配した。それに対し関学大は流れを変えるため、足の怪我でスタメンを外れていたエースMF⑨阿部浩之を投入。「点を取ることにしか考えてなかった」という阿部を中心に積極的な攻撃の姿勢を見せる。それが功を奏し、89分にPKを獲得。これを阿部が落ち着いて決め、同点に。そして、後半ロスタイム。MF⑧梶川諒太からパスを受け取った阿部が反転し、右足を一振り。阿部の放った鮮やかなシュートが大体大ゴールネットを揺らした。

大体大はゲームを優位に進めていたものの、逆転され4連敗。一方の関学大は苦しいゲームの中、エースの勝負強さが光り、4連勝。首位に躍り出た。

(文：UNN関西学生報道連盟 寺島 琴美)

関学大 3 - 2 大体大

■5月9日(土) 14:00 kick off
@三木総合防災公園第2陸上競技場

◆得点◆

関学大 11分 9 村井 匠
大体大 40分 29 田上 勇輝(7 廣岡 太貴)
大体大 59分 11 山本 将一
関学大 89分 19 阿部 浩之
関学大 89分 19 阿部 浩之(18 梶川 諒太)

同志社大学 vs 立命館大学

同大 0 - 0 立命大

■5月9日(土) 11:30 kick off
@山城総合運動公園太陽が丘球技場B

京都府選手権決勝ぶりとなったこのカード。勝って再び京都ナンバー1を証明したい同大と、リベンジしてリーグ初勝利を飾りたい立命大。暑い日差しの中、両校の意地をかけた熱戦が繰り広げられた。

前半は真重な入りだった。ボールは持つものの、決定機は生み出せず、前半のシュート数も同大2本・立命大3本と至極空々目。勝負は後半へ持ち越された。

後半13分、立命大FW 35 西村明雄がゴール前でオーバーヘッド。シュートは浮いて大きく逸れたものの場内を沸かせる。これで試合も活気づいたのか、徐々にゴール前へと迫るようになり。立命大GK①鈴木彩貴も「後ろから見て面白かった」と話すよう、終盤へ差し掛かるにつれ、試合もヒートアップ。88分、同大FW 28 辻智人のゴールがポストに当たり跳ね返る惜しい場面。直後ゴール前まで攻め上がった立命大も混戦の中、枠を狙うが同大GK 21 堀之内善博が浮いたボールをすかさずキャッチ。両者ともにゴールまであと一步と迫るが決め切れず、試合はスコアレスドロー。同大・望月慎之監督は「守る時間帯の方が長かった、よく耐えた90分」と振り返り、一方、立命大MF⑩内田昂輔は「前よりできて、という感じ。攻撃もかみ合っているし、あとはフィニッシュ」と手応えを噛み締めていた。

(文：同志社スポーツアトム編集部 伊藤 紗由里)

びわこ成蹊スポーツ大学 vs 大阪教育大学

大混戦のリーグ状況。どのチームの実力も僅差…。それを象徴するかのようなゲームとなった。

序盤、びわこ大がボールをもちながらも、圧倒的にチャンスメイクをしていたのは大教大。前半のシュート数は7本と、FKなどのセットプレーを生かしつつ、果敢にびわこ大ゴールへ迫った。

後半に入っても依然と大教大ペース。59分にはクリアミス拾い、大教大MF⑩三好洋央がロングシュート。GKにからうじてクリアされるものの、場内を沸かせる見せ場となった。しかし、前半はシュート数1本と抑え込まれていたびわこ大が徐々に前線に上がり始めると、試合が動いたのは79分。左サイドを駆け上がったびわこ大FW 41 森下秀平が中央からパスをもらい、一人抜いて右サイドに突き刺すシュート。本人も「嬉しかった」と笑顔をこぼす値千金ゴールがそのまま勝ち越し点となり、1-0で試合終了。びわこ大・望月聡監督は「苦しい試合だったが、耐えて勝機をものにできたのはチームの財産」と振り返った。一方、大教大・入口豊監督は「最後まで1点を争うゲームができた。対等に戦う力はついてきた」と、勝ちこそ逃したものの、手応えを新たに示した。

(文：同志社スポーツアトム編集部 伊藤 紗由里)

びわこ大 1 - 0 大教大

■5月9日(土) 14:00 kick off
@山城総合運動公園太陽が丘球技場B

◆得点◆

びわこ大 79分 41 森下 秀平(13 平野 甲斐)